



楽しもうみんなで!

よきこい高知国体⑦

地区協力が着々と発足!

平成14年10月26日(土)〜31日(休)に開催される2002年よきこい高知国体秋季大会において、南国市には約1千名もの大会関係者が訪れます。しかし、宿泊施設の不足から、選手・監督のうち約8百名を民泊で対応しなければなりません。そこで、市内地区公民館を単位とした地区協力が着々と発足していきます。

地区協力は、大きく分けて次の3つについて活動していきます。

1、選手・監督の宿泊に関すること

▼食事、宿泊、入浴についてお世話します。

2、歓迎装飾に関する事

▼一斉清掃などによる地区の環境美化、花いっぱい運動、歓迎旗の作成など、各地区協力のアイディアで、地区内に民泊される選手・監督を歓迎します。

3、応援に関する事

▼民泊したチームを地区の皆さんで応援します。

忘れられない思い出づくりを!

国体で民泊を引き受けた方に聞くと、「大会期間、宿泊のお世話を通じて全国の選手たちと最も身近に接することができた。また国体終了後のお礼の電話や手紙、特産物のやりとりなど、民泊で生まれた温かい交流の輪の広がりに大変感動した」とのことです。この国体は30年に一度の大きな舞台です。地区協力を活動に積極的に参加し、現在住んでいる地域のひととのつながりを深めるだけでなく、全国の人たちとの交流の輪の中で、心に残るたくさんの思い出をつくってみませんか?

※お問い合わせは、国体推進室(☎3533-6533)まで



人権と輝く未来へ③

人権・同和教育シリーズ

在日外国人問題

歴史・現状と課題

現在の日本には、多くの人権問題があります。

外国人問題も、その重要な一つです。日本にいる外国人は、大きく分けると在日外国人(オールドカマー)日本の植民地であった中国や朝鮮から、戦争遂行のため強制連行されてきた人々・日本人のために土地や仕事を奪われ日本に渡ってきた人々とその子孫で永住資格を持っている)と滞日外国人(ニューカマー)1980年代以降急激に増加した外国人労働者で永住資格はない)に分けることができます。

在日外国人の大部分は韓国・朝鮮人です。高知県にも現在約8百人の韓国・朝鮮人が主んでいて、私たちの生活のなかにも、多くの文化が伝わっています。まずは、その文化の一端を紹介しましょう。

私たちにもすっかりおなじみのものとなったキムチと焼肉、これは代表的な韓国・朝鮮文化です。キムチはヘルシーな食品として若者にも人気がありますし、焼肉は大人も子どもも大好きです。ところでキムチの中に入っているトウガラシはもともと朝鮮半島にはなかったことご存知でしたか? 約2百年前に日本から渡っていったのです。

また、土佐の食文化も、韓国・朝鮮文化とよく似ています。土佐赤牛は、日本の各地で生産されている牛のなかで、最も朝鮮赤牛に近いこと、ニンニクをたくさん使って生で食べることもなど共通点がたくさんあります。

このように文化の面から在日外国人問題を考えると、また新しい発見があるのではないのでしょうか。ところで、アナゴやたくあんといった日本語が韓国で通用することを存じでしたか。その理由は次回でお知らせします。



チマチョゴリ (韓国の民族衣装)